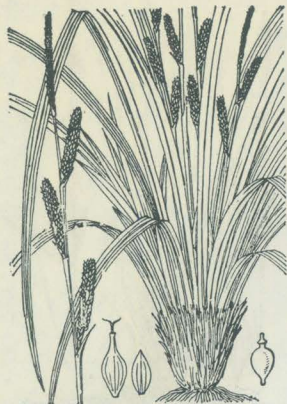


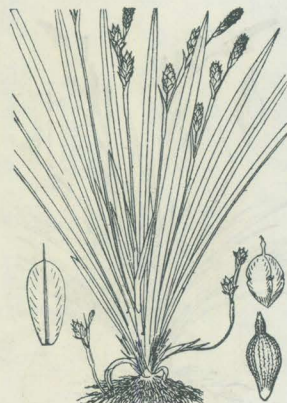
第 3773 図

かやつりぐさ科



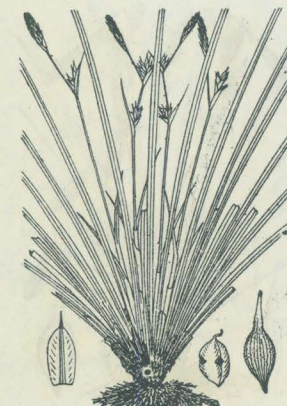
第 3774 図

かやつりぐさ科



第 3775 図

かやつりぐさ科



きのくにすげ

一名きしゅうすげ

*Carex Matsumuræ Franch.*

九州海岸から日本海岸は富山湾、太平洋岸は三河湾までの海岸の常緑樹林下にはえる多年生草本。根茎は斜めになり多数の葉を斜につけ、根元に冬季花序が芽を出す頃には黒褐色の繊維を伴うが、5月頃には既に失う。葉は厚みある草質で、稍光沢あり巾1cm概形ノシランに似る。5月には果序が目立ち、緑色の細くない軸の上半に、葉身の短かい鞘状葉腋から直立した3-4個の雌穂と瘠せた頂生の雄穂を生ずる。小穂は3cm長内外。雌花穎は膜質白緑色で短かく、果囊はほぼ直立、緑色で長卵形、長さ5mm上部1/3は急に嘴となる。脈多し。和名は紀之国スゲで産地に基づく

ひろばすげ

*Carex insanae Koidz.*

北海道から主に北陸地方にわたって多少湿度の高い林下に生ずる常緑多年生草本。根茎は倒れた様になり、葉もまた広く開出して立たない。葉は長さ30-40cm広狭種々混生するが広いのは巾2cmに達し、鮮濃緑色で光沢あり、厚味ある草状草質、縦にひだがある。5月頃葉より短かい花序をつけるが、屢根際うねった花序をも出す。頂穂は雄、15mmで稍太く、側生は雌性、緑色、太目の柱状、2cm長、粗粒雌花穎は円頭で凸端、淡緑色、果囊は超出し、長さ5mm斜めに開出、暗緑色、微毛を生じ、瘦果は中央で三稜上にくびれあり。柱頭3。和名は広葉スゲ。

おおひえすげ

*Carex insanae Koidz.*  
*var. subdita Ohwi*

関東南部から四国に至る太平洋斜面の多年生草本で、林下に生じ、北陸のヒロバスの表日本型である。それに比べて全体は小形で痩せ、葉巾狭く4mm以下、質薄く僅かに硬い感じの草質、雌穂は短かく且つ少数花で緑色、各花は開出し、嘴が多少長い為ムギスゲを見る感じがある。別に中部地方から関西中部を経て四国九州の山間には葉質が厚く葉巾も稍広く6mm前後のものが分布する。それをアオバスゲ (*C. insanae var. papillatunculmis Ohwi*) というが、その嘴が短かく、葉が巾を拡大したものがヒロバスの本体である。

ちゅうぜんすげ

*Carex longerostrata C. A. Mey.*

*var. pallida Ohwi*

(=*C. tenuistachya Nakai*)

北関東から九州にわたるブナ帯の山中草原に生ずる多年生草本で、長く地下茎が伸びるため1茎ずつ離れている。しかし東北地方から北ではこの地下茎が次第に節間短縮し、北海道以北シベリアへかけては大株となる。それを基本種マツマエスゲという。葉は巾2mm、草質で緑色、鞘部は淡い褐色、初夏に果序を見るが、雄穂は頂生、1cm長で多少棍棒状、淡黄褐色、少しく下に雌穂を側生、柄があるが鞘中に収まる。長1cm位、花は少数緑色で開出、果囊は長さ7mm草質で卵状披針体上部長嘴、短かい軟毛がある。和名は中禅寺スゲで日光中禅寺に最初発見されたのに依る。松前は北海道の地名。

けたがねそら

*Carex ciliato-marginata Nakai*

岡山県から以西以南の丘陵や浅山の日蔭地にはえる多年生草本で、朝鮮にも分布する。根茎は地上に露出して匍いタガネソウに似た草状であるが、概形はそれよりも小形であり、葉の縁に短かいまつげ状の毛が列生するのが区別点である。雌花穎果囊もまた短かいちぢれた毛を生ずる。若葉は淡紫紅色を帯び、葉鞘は殊に着色が著しい。前年の古い株から花序を腋出する点はタガネソウ及び次のササノハスゲに通ずる特徴である。

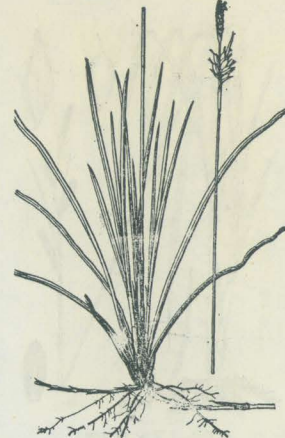
ささのはすげ

*Carex pachygyna Fr. et Sav.*

関西から中国及び四国にかけて林下にはえる多年生草本。根茎は木質化した膨らみがあって横臥し、先端から葉を5-6枚叢生する。葉は広い線状倒披針形でタガネソウよりは狭く巾2cm迄。質厚味があり、濃鮮緑色で光沢を有し、殆んどたてじわを生ずることなく伸び、根元は強く紫紅色に染まり、附根から横にひろがるから丈は甚だ低い。4月頃に丈夫で太目の緑茎を旧根茎から立て、高さ15-20cm頂は雄性、あとは側生の雌穂で5-6段、緩かな鞘の間に2-3ずつ生じ、稍頭状に密集した雌花は緑色、後に褐色を帯び4mm長。雌花穎は遙かに短。和名は笹之葉スゲ、葉状による。

第 3776 図

かやつりぐさ科



第 3777 図

かやつりぐさ科



第 3778 図

かやつりぐさ科

